

- 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会(第2回) 2016年9月7日
- 国立教育政策研究所プロジェクト研究「教員養成等の改善に関する調査研究」(平成25-26年度)

教員の資質・能力 及び 養成段階の到達目標

初等教育／中等教育・数学／中等教育・保健体育 に焦点化して



教員養成カリキュラム班 コア・カリキュラム研究チーム長
銀島 文

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 総合研究官・基礎研究部副部長

概要

■問題意識

- (i) 教師は、**学習指導においても児童生徒の人間性を育む**視点を持つべきで、その役割を十分に認識すべき。
- (ii) 学部における教員養成段階では、そのためのカリキュラムが準備されるべき。

■研究の特徴 …… 研究方法の独自性

- (ア) **教科専門科目と教職科目の架橋領域**に着目し、学習指導における人間性の育成を可能にする教師の資質・能力に焦点化して議論を進めた。
- (イ) 議論のメンバーは**教科教育研究者**に限定し、学習指導における人間性の育成に焦点化して議論した。

■研究成果

- ① 教員の資質・能力の枠組みを構築
 - ② 教員養成の到達目標を措定
-

研究成果① 教員の資質・能力の枠組みを構築

■構成要素

A 資質・能力…指導や授業に信頼・納得をもたらすための人としての魅力や熱意。指導や授業等の力を含み支える役割を有する。

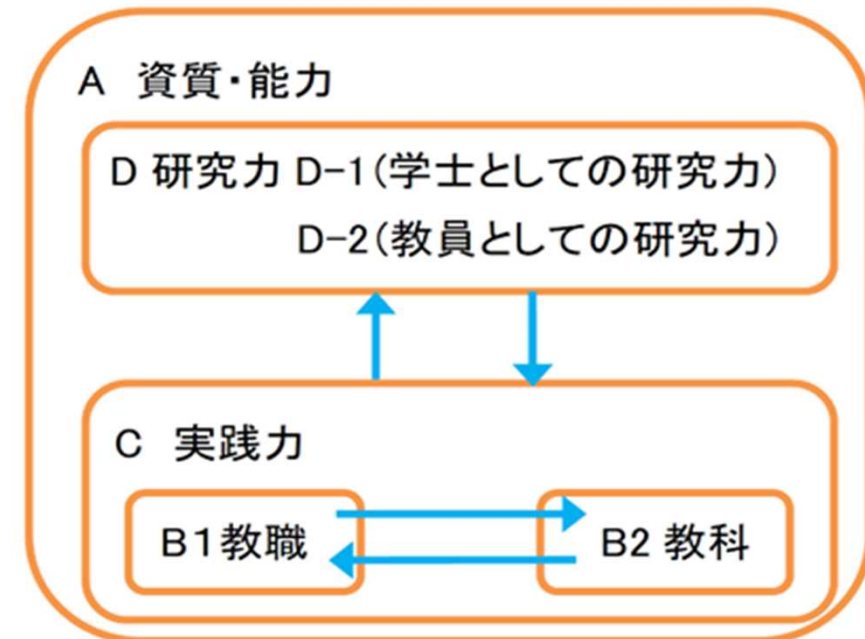
B1 教職に関する知識・理解…学校や教育の機能や役割等の知識・理解。

B2 教科に関する知識・理解…教科に関する内容と指導に関する知識・理解。

C 実践力…実際の教育に関わることであり、ICT等、社会の変化に対応する内容も含む。

D 研究力…あらゆる教育活動を吟味検討し、改善を図るために必要。

- ・ 5領域 A, B1, B2, C, D は、**学校段階、教科を超えて共通性**を有する。
- ・ **中等教育の教科による違い**は、主としてB2に表出し、さらに、教科の特質がC, Dに反映する。



研究成果② 教員養成の到達目標を措定

- 領域ごとに大項目と小項目を示し、解説を掲載した。

→(資料1)

「初等教育の教員養成の資質・能力一覧」

→(資料2)

「中等教育・数学の教員養成の資質・能力一覧」

→(資料3)

「中等教育・保健体育の教員養成の資質・能力一覧」

- 内容を含む教科の一事例・・・数学
実技を含む教科の一事例・・・保健体育

- 教科の特質を踏まえて到達目標を補足・再構成。

数学 ... (1) 数学を結果としてでなく過程として理解すること、

(2) 数学学習の理解過程や思考の特徴の理解、

(3) 数学の教育と実践の探究, (4) 数学の指導技術に係わるICTの活用。

保健体育 ... (1) 実技を含む, (2) 行動規律の指導、

(3) 運動会等の運営に係わる「保護者や地域住民との信頼関係構築」, (4) 部活動。

	大項目	小項目	解説
初等D	D-1 課題探求の基本的な過程(課題の認識, 必要な調査・分析, 解決策の立案, 解決策の実施, 結果の評価・改善という一連の過程)を知っている。	<ul style="list-style-type: none"> 社会の諸現象に関する理解を深めるとともに、課題を発見し、必要な調査・分析の計画を立て、解決に向けて創造的に考えることができる。 課題の探求のために多様な知識や情報を適切に活用するとともに、複眼的、論理的に分析し表現することができる。 課題の解決に向けて自律的に行動するとともに、コミュニケーションを大切に他者と協動的に取り組むことができる。 	「学びの姿勢や問題解決能力」(領域A参照)を持っていることは、教員としてのみならず社会人として重要である。このような姿勢や能力の伸長には、自ら課題を見いだしそれを探求する活動を行うことによって、自らの体験・経験の結果として、課題の認識とその追求、改善という「課題探求の過程」を知ることができる。
	D-2 児童、学級、学校において教育課題を自ら見だし、その教育課題に関する探求を行い、探求成果を報告としてまとめることと、活用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習などの体験を通して、児童の発達、学習指導、学級経営など教育活動に関する課題について自ら見いだすことができる。 教育の諸課題に対して視学問を参照したり、先行実践を調査したりするなど、適切にアプローチし探求することができる。 探求した成果を論文としてまとめたり、プレゼンテーションを作成して共有したりするなど、説明や報告をすることができる。 諸課題に関する探求の成果を、実際の教育実践に活用し、その効果を省察することができる。 	教師には、常に児童及び授業についての理解を深め、その指導に関わる力量の向上を心掛けることが求められる。そのために、まず、自らの教育活動について課題を見いだすとともに、その課題の解決に向けてどのようなアプローチが可能であるのか、複数の選択肢を持つことが必要である。さらに、その課題解決の成果やアプローチの手法などを教師同士で共有し、再び、自身の実践の省察を通して次なる課題を見いだしていく。こうした「教育実践に関わる課題探求」を日常的に行うことができるよう、小項目を構成した。

(資料1 抜粋)

各大学等における教員養成カリキュラムの分類

- ・鳴門教育大学
- ・日本教育大学協会
- ・広島大学
- ・福島大学
- ・横浜国立大学

より良い教育実践のための
他機関連携等に焦点化

→ 省察の視点等が課題になる

- ・岡山大学
- ・三大学研究協議会(上越, 鳴門, 兵庫)
- ・奈良教育大学
- ・三重大学

教科専門科目と教職科目(教科教育)の
架橋に焦点化

→ 着目点が課題になる

本研究では、着目点として
「人間性の育成」を設定

人間性の育成への着目

■教育基本法

第一章 教育の目的及び理念

(教育の目的)

第一条 教育は、**人格の完成**を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

人格の完成 ≈ 人間性の育成

これまでの教育養成カリキュラム・・・人格の完成(人間性の育成)という視点が潜在化する傾向。

よって、

教科専門科目と
教職科目の
架橋



文化の伝承と伝達を通して子供が新しく文化を創造していくとともに、**人間性を獲得していく視点**を重視した教員養成の在り方を構想する必要がある

人間性を捉える視点の規定

・ 個の自律

自己の目標や見通しの基に考え、判断し、行動し、見通しと振り返りを行って、目標や見通しを的確かつ適切なものへと変容していく。

・ 他者との関わりによる個の変容

他者と関わることにより、いろいろな側面から自己の考えを見直し、判断し、行動し、よりよく自己実現できるようになる。

■ 人間性の育成と「生きる力」

自律と他者との関わりによる変容(成長)は、現行の教育課程の基底となっている「生きる力」と言われるものである。



研究方法の独自性

■各大学等における取組・研究

各組織の現状を踏まえた検討及びプランニングになっているものが多い。そうした手法は、課題の明確化と改善策の検討という点で有効性を有する。一方、現状が議論の前提となっている点で方法論的な限界をも内包する。

そこで本研究では、

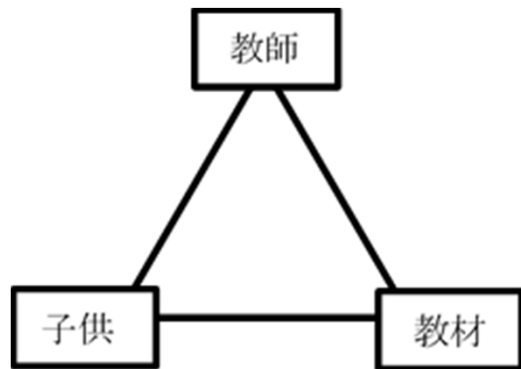
現存の組織に限定することなく、**教員養成の理念を追求**することを議論の出発点として考察を進めた。

議論のメンバーを教科教育研究者に限定することにより、**学習指導における児童生徒の人間性の育成に焦点化**して議論を進めた。

教育の二つの構図

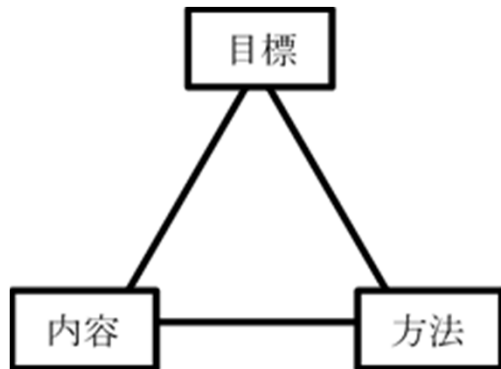
→ 現状の教員養成教育では、個別に習得され、あたかも別個のように捉えがち

教育は、教師と子供との関係の上に、
教材や内容に関する教授と学習として成立。



【 教育の構造 】

教材を挟んで、教師と子供がコミュニケーションを通して教育的関係を作り出す。
人間形成の側面を強調しており、古くは「訓育」と呼ばれ、人と人の関係のことを示している。



【 教科教育の構造 】

教材や内容に関する教授・学習は、子供たちが教師の指導の下、内容と方法によって特定の目標に達する。
これは、教科の教育に代表され、特定の文化・学問を学習することをも目指しており、「陶冶」と呼ばれる。

教育において、教師は両方の構図を同時に遂行する。

教員の資質・能力： 新たな枠組みの必要性 ←教育の多様化・複雑化・高度化

教員免許状取得に必要な科目の内訳（法令上の要件）

【小学校教諭一種免許状（大学卒業程度）の場合】

■構成要素

A 資質・能力…指導や授業に信頼・納得をも人としての魅力や熱意。指導や授業等の役割を有する。

B1 教職に関する知識・理解…学校や教育等の知識・理解。

B2 教科に関する知識・理解…教科に関する知識・理解。

C 実践力…実際の教育に関わることであり、の変化に対応する内容も含む。

D 研究力…あらゆる教育活動を吟味検討し、

区 分	細 目
教科に関する科目 右記の科目について、 1以上の科目 合計8単位以上修得	<ul style="list-style-type: none"> ・国語（書写を含む） ・社会 ・算数 ・理科 ・生活 ・音楽 ・図画工作 ・家庭 ・体育
教職に関する科目 右記の科目について 41単位以上修得	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義等に関する科目……………2単位 （教職の意義及び教員の役割、職務内容等） ・教育の基礎理論に関する科目……………6単位 （教育の理念、教育に関する歴史及び思想、児童等の心身の発達及び学習の過程、教育に関する制度的事項等） ・教育課程及び指導法に関する科目……………22単位 （教育課程の意義及び編成の方法、各教科の指導法、道徳の指導法、特別活動の指導法、教育の方法及び技術） ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目……………4単位 （生徒指導・教育相談（カウンセリングを含む）・進路指導の理論及び方法） ・教職実践演習……………2単位 ・教育実習……………5単位
教科又は教職に関する科目 上記の教科に関する科目又は教職に関する科目について10単位以上修得	
その他の科目 右記の科目について 各2単位以上修得	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・体育 ・外国語コミュニケーション ・情報機器の操作
介護等体験	小学校又は中学校の免許状を取得するためには社会福祉施設等における7日間以上の介護等の体験が必要

表の科目・単位数は、免許状取得に最低限必要なものですので、大学等によっては、他にも必修科目を設けている場合があります。

また、表の科目名は法令上の名称であり、実際の科目名は各大学の判断により決められています。

教員の資質・能力： 新たな枠組みの必要性 ←教育の多様化・複雑化・高度化

■構成要素

A 資質・能力…指導や授業に信頼・納得をもたらすための人としての魅力や熱意。指導や授業等の力を含み支える役割を有する。

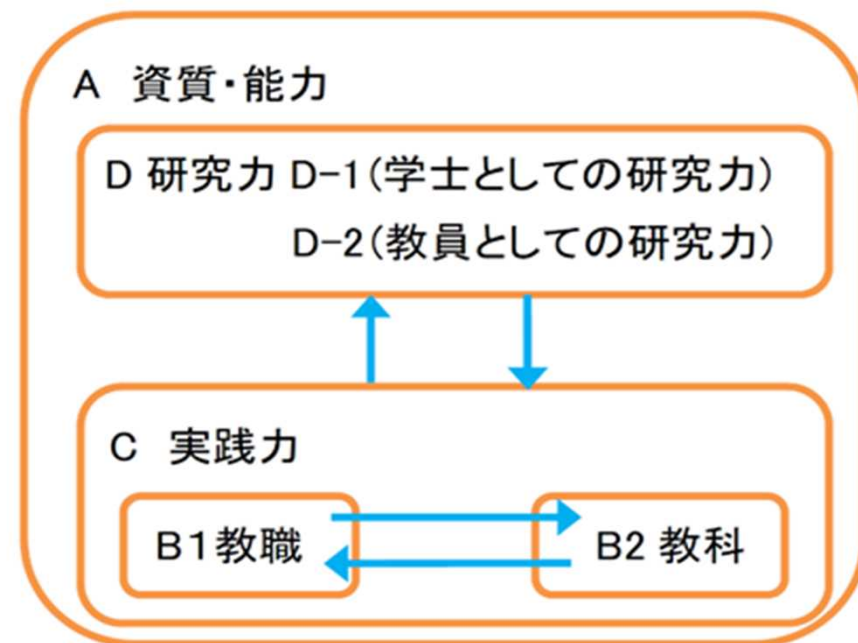
B1 教職に関する知識・理解…学校や教育の機能や役割等の知識・理解。

B2 教科に関する知識・理解…教科に関する内容と指導に関する知識・理解。

C 実践力…実際の教育に関わることであり、ICT等、社会の変化に対応する内容も含む。

D 研究力…あらゆる教育活動を吟味検討し、改善を図るために必要。

- ・ 5領域 A, B1, B2, C, D は、**学校段階、教科を超えて共通性**を有する。
- ・ **中等教育の教科による違い**は、主としてB2に表出し、さらに、教科の特質がC, Dに反映する。



資質・能力（初等教育 B2教科に関する知識・理解）

B2-1 各教科等の指導内容の教育的価値を人間形成の側面から理解している。

- ・各教科等の背景となる親学問に関して本質的かつ基本的な知識や方法の体系について説明できる。
- ・各教科等の背景となる親学問に関して学習者が日常生活等で獲得している既存の知識や見方や考え方を適用して説明できる。
- ・学習者がこれからの社会に生きるために必要な資質や能力について列挙できる。
- ・学習者がこれからの社会に生きるために必要な資質や能力を育成できるように、既存の文化や学問・科学を再構成できる。
 - ・学習指導要領の総則における教育課程編成の一般方針や内容等の取扱いに関する共通的事項、授業時数等の取扱い、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項などについて説明できる。 など

B2-2 各教科等の指導内容に関する系統的な知識、技能を持っている。

- ・学習指導要領の各教科等における目標とそれに基づく指導内容について説明できる。
- ・学習指導要領の各教科等における指導内容について小、中学校を一貫した視点から学年内や学年間のつながりを説明できる。 など

B2-3 各教科等の目標、教材、指導方法、学習評価についての知識を持っている。

- ・学習指導要領の各教科等における目標の意味や意義について説明できる。
- ・学習指導要領の各教科等における指導内容の意味や意義について説明でき、それを教材に具現化できる。
- ・学習指導要領の各教科等における指導方法の意味や意義について説明でき、それを具体的な学習指導過程に構想し展開できる。
- ・学習指導要領の各教科等における観点別評価の意味や意義について説明でき、それを学習指導過程で具現化できる。 など

資質・能力（中等教育・数学 B2教科に関する知識・理解）

B2-1 目的・目標

- ・「陶冶」的目的, 実目的, 文化的目的といった視座から, 教育における数学の役割や意義を認識し, 時代や社会に見合った数学教育の在り方を探究することができる。
- ・学習指導要領を下に, 歴史的変遷や算数科との関連も踏まえながら, 数学科の目標を具体的に理解している。 など

B2-2 数学の内容と方法

- ・数学の内容に関する基礎知識を持つとともに, 数学を生み出したり使ったりする方法を理解している。
- ・学習指導要領を下に, 数学科の内容とその系統を理解している。 など

B2-3 生徒の数学学習

- ・生徒の発達段階を踏まえながら, 数学学習における生徒の理解過程や思考の特徴を理解している。
- ・生徒一人一人の学習状況や能力の違いなど, 数学科における個に応じた指導の必要性や意義を理解している。 など

B2-4 授業構成, 指導技術

- ・数学科の授業を構成するために必要となる教材研究を行うことができる。
- ・問題解決的な学習や探究的な学習, 数学的活動に基づく学習など, 数学科における基本的な授業方法を理解している。
- ・教材研究を踏まえながら, 数学科の学習指導案を作成することができる。
- ・生徒への課題提示や指示の仕方, 発問や板書の仕方, 教具やICTの活用など, 数学科の授業における基本的な指導技術を習得している。 など

B2-5 評価

- ・数学科における観点別学習状況評価の意味や意義を理解している。
- ・数学科の授業において, 生徒一人一人の学習の達成度や進捗, 課題を把握するための評価方法を理解している。
- ・指導と評価の一体化という視座から, 生徒一人一人の学習の達成度や進捗, 課題に関する評価結果をフィードバックしたり, 指導の改善に生かしたりすることの意義を理解している。 など

資質・能力（中等教育・保健体育 B2教科に関する知識・理解）

B2-1 保健体育科の指導内容の教育的価値について理解している。

- ・体育・スポーツ・保健に関わる専門科学の基本的な知識と方法を理解し、説明できる。
- ・体育・スポーツ・保健に関わる専門科学に関して、生徒が持つ知識・技能、見方・考え方について説明できる。
- ・生徒が、生涯を通じて健康で豊かに生きるために必要な、体育・スポーツ・保健に関わる専門科学を学ぶことによって得られる、資質や能力について列挙できる。
- ・生徒が生涯を通じて運動に親しみ健康で豊かに生きるために必要な体育・スポーツ・保健に関わる資質や能力を育成できるように、関連する専門科学の内容を、学習指導要領に基づきながら、保健体育科の指導内容に組み立てることができる。 など

B2-2 保健体育科の指導内容に関する系統的な知識・技能を持っている。

- ・学習指導要領に定められている保健体育科における指導内容について基本的な知識・技能を身に付けている。
- ・他校種の学習指導要領に定められている体育科・保健体育科の指導内容についても知識・技能を持っており、他校種間の繋がりを説明できる。 など

B2-3 保健体育科の目標、内容、指導方法、評価についての知識・技能を持っている。

- ・学習指導要領の保健体育科の目標について説明できる。
- ・学習指導要領の保健体育科の内容とその系統性について説明できる。
- ・学習指導要領の保健体育科の目標や内容、生徒の実態を基に、学習指導案を作成することができる。特に単元計画の意味を理解し、適切な単元計画を作成することや、本時案を作成することができる。
- ・指導内容や生徒の実態に対応した教材や教具を工夫したり、作ったりすることの必要性を理解し、適切な教材や教具を工夫したり、作ったりすることができる。
- ・指導に当たっては多様な学習形態があることを理解し、適切な指導方法を選ぶことができる。
- ・保健体育科の観点別評価の意味について理解している。また、教科の目標や内容に即して、適切な方法を用いて学習者の評価をする、という点を理解している。
- ・上記の視点を理解し、大学での模擬授業において総合的に実践することができる。 など

今後の課題

- 数学, 保健体育以外の教科の教員養成に関して, 本研究の成果が活用可能。教科の特徴を基に議論することが有効。今回示した到達目標は例示であり, 実践を踏まえた検証や更なる議論が必要。
 - 本研究では, コア・カリキュラム構築のための基盤整備としての役割を担うことを追求した。教員養成のカリキュラム開発と質的向上の参考資料として位置付く。
-

(資料1) 初等教育の教員養成の資質・能力一覧

	大項目	小項目	解説
初等 A	A-1 教育者に求められる資質や能力(使命感, 教育的愛情, 対人関係能力)を備えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育者としての使命感や責任感を持っている。 ・教育という職業に対する誇りを持っている。 ・幼児児童生徒に対する教育的愛情を持っている。 ・人間の成長・発達についての深い理解を持っている。 ・学校組織の一員として活動するための社会性, 同僚と協力して教育を展開する協働性を身に付けている。 ・他者と円滑に意思疎通するためのコミュニケーション能力を身に付けている。 ・児童や生徒からも学び, 共に成長しようとする姿勢を身に付けている。 ・教育の専門家としての力量を持っている。 ・教師になるための課題, また現代の教育の課題を自覚し, それらを解決しようとする姿勢を身に付けている。 ・ICTに関する基礎的知識や技能を持っている。 ・情報化社会において必要とされる倫理や規範について理解している。 	<p>教育は人なりというように, 教師には教育者であることが求められている。このことは, その人自身における教育的人間としての資質や能力とともに, 現代の国際化, グローバル化, 情報化社会では, 地球的な視野での行動や態度, 情報関係処理能力や ICT などの技術や技能をも必要としている。</p> <p>このような資質や能力, 技術や技能をまとめると, ①使命感や責任感, ②教育的愛情や誇り, ③人間性や社会性, ④対人関係能力, ④学びの姿勢, ⑤問題解決能力, ⑥地球的視野やその行動, ⑦ICT やその倫理, ⑧専門的知識, ⑨一般的な教養であろう。⑧専門的知識や⑨一般的な教養はほかの項目で, 取り扱われるので, A としては, ①-⑦で構成される。</p>
	A-2 教育の実際が同僚, 保護者, 地域の人々との連携により展開されていることを理解し, 同僚と互いに高め合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は学校の一員であるとともに, 地域社会の一員でもあることや, 子供たちが各家庭において育っていることを理解している。 ・学校は, 教師が協働して取り組む社会的な集合体であり, 各家庭や地域社会と連携し, 展開されていることを理解している。 ・教師は, 教育者として, 地域社会や学校組織の一員として自覚し, 地域の人々や同僚と連携・協力することが必要であることを理解している。 ・学校は, 現代社会が求める教育課題に取組, 一人一人の児童生徒を成長・発展させ, より高い教育を実現しようとしていることを理解している。 	<p>教師は学校の一員であるとともに, 地域社会の一員でもある。また, 子供たちは, 各家庭において育っている。学校は, 家庭や地域社会と連携するとともに, 教師が協働して取り組む社会的な組織体である。各教師は, 教育者としての使命とともに, 地域社会, 学校組織の一員としても自覚し, 地域社会や組織を地域の人々, 同僚と連携・協力しながら, 発展させることが必要である。これらを整理すると, ①学校の社会的関係, ②同僚, 保護者, 地域社会の人々との連携, ③同僚との協調性・協力, ④教育を高める姿勢, で構成される。</p>
	大項目	小項目	解説
初等 B1	B1-1 社会の形成において学校や教育が果たしてきた機能や現代社会における学校や教育の役割を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の形成において果たしてきた学校の機能について知っている。 ・現代社会における学校や教育を取り巻く状況に関して理解している。 ・現代社会において教師として何が求められているかを理解している。 	<p>教師は, 近代社会の国家建設と維持のための国民の育成, 個人の幸福な生活保障に必要な能力の発達に関して, 学校や教育が果たしてきた機能を理解することが求められる。さらに, 教師は, グローバル化, 知識基盤社会等の現代社会の特徴が学校や教育に与える影響を理解した上で, そのような現代社会の影響の下で将来の社会を担う児童の成長と発達に教師が果たす役割を理解することが求められる。</p>

初等
B1

<p>B1-2 義務教育の意義と役割について知っている。小学校教育の特質について知っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の意義と役割を知っている。 ・小学校の組織と経営，行事等について知っている。 ・教育基本法，学校教育法，学習指導要領等と関連付けて，小学校の各教科や特別活動等が人間形成において果たしている役割について知っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>教師は，保護者及び教育行政が，児童の成長と発達を保障するために，普通教育を受けさせる義務を持つ意義と役割を知る必要がある。そして，教師はその義務教育の目的を達成するために制度化された小学校の組織，経営，行事の全体を理解することを求められる。さらに，教師は，教育基本法，学校教育法，学習指導要領等の法令と関連付けて，小学校の各教科や特別活動等が人間形成において果たしている役割について知ることを求められる。</p>
<p>B1-3 学校や教育を取り巻く基礎的な知識を持ち，関連する法令の内容と関連付けて教師に求められていることについて理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を取り巻く地域社会の要請や子供の実態を把握し，同僚と協力する必要性について理解している。 ・教育基本法，学校教育法，教育公務員特例法等に基づき，教師に求められている服務や研修等について知っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>教師は，学校を取り巻く地域社会が児童の成長と発達に求めている要請を把握し，校内の同僚と協力して，実際の児童の実態に応じて必要な教育的働きかけを行う役割を求められる。また，教師はその役割を果たすために，教育基本法，学校教育法，教育公務員特例法等に定められた，教師に求められている服務や研修等の内容を知っていることが求められる。</p>
<p>B1-4 小学校の教育課程に関する知識を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の成長と発達に必要な文化を組織した全体的な計画としての教育課程に関する知識を持っている。 ・計画を実践するとともに，その実践の成果に基づいて評価し改善する過程としての教育課程に関する知識を持っている。 ・小学校の教育課程としての小学校学習指導要領に関する知識を持っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>教師は，小学校の目標を実現するために，次のような小学校の教育課程に関する知識を持つことを求められる。つまり，児童の成長と発達に必要な文化を組織した全体的な計画としての教育課程，さらに，その計画を実践し，その実践の成果に基づいて計画を評価し改善する過程としての教育課程に関する知識である。また，教師は小学校の教育課程として法令で定められた小学校学習指導要領に関する知識を持つことも求められる。</p>
<p>B1-5 生徒指導や学級経営の意義や視点などに関する知識を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営・生徒指導の意義や視点などに関する知識を持っている。 ・行動管理の方法に関する知識を持っている。 ・教室環境，学習環境づくりに必要な知識を持っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>教師は，学級担任として児童の内面を深く共感的に理解した上で，児童の行為や行動を指導する知識を持つことが求められる。そして，学級の目標を設定し学級活動や学校行事等の学級経営の知識を持つことが求められる。また，学級の規律を維持して児童が協力して行動するための管理の知識，机や掲示物の配置に加え日記作成や学級文庫の設置等の安全で安心できる教室環境や学習環境づくりの知識を持つことも求められる。</p>

初等 B1	B1-6 発達や学習に関する知識を持っている。また、特別に支援を必要とする児童の特徴、必要な対応方法について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達と学習に関する知識を持っている。 ・教授及び学習指導に関する知識を持っている。 ・特別に支援を必要とする子供の特徴を理解しているとともに、多様な個々の子供のニーズに対して効果的に対応する方法を理解している。 	教師は、児童の成長や発達段階に関する知識を持つとともに、発達段階に応じた学習の特質に関する知識を持つことが求められる。さらに、教科指導に必要な教授及び学習指導に関する知識を持つことが求められる。そして、特別に支援を必要とする子供の特徴を理解しているとともに、多様な個々の子供のニーズに対して効果的に対応する方法を理解していることが求められる。
	B1-7 児童の発達や学習を評価することの目的、方法、意義について知識を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の目的と意義について知識を持っている。 ・評価に用いる様々な方法を知り、その方法の利点や弱点を知っている。 ・目標に準拠した評価を実施する上で必要な事項について知っている。 	教師は、児童の発達や学習を支援するための評価の目的と意義について理解するとともに、評価に用いる様々な方法を知り、その方法の利点や弱点を知ることが求められる。そして、現在小学校で用いられている目標に準拠した評価を実施するために必要な評価規準の作成等の必要な事項について知ることが求められる。
	B1-8 ICTに関する基礎的な知識や技能を持ち、情報化社会において必要とされる情報倫理について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに関する知識を持ち必要なスキルを理解している。 ・情報化社会において必要とされる規範について理解している。 	教師は、現代社会で求められているICTに関する知識を持つとともに必要なスキルを理解することが求められる。また、教師は、情報化社会でICTを活用する前提となる情報活用に関する規範について理解することが求められる。
	大項目	小項目	解説
初等 B2	B2-1 各教科等の指導内容の教育的価値を人間形成の側面から理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の背景となる親学問に関して本質的かつ基本的な知識や方法の体系について説明できる。 ・各教科等の背景となる親学問に関して学習者が日常生活等で獲得している既存の知識や見方や考え方を適用して説明できる。 ・学習者がこれからの社会に生きるために必要な資質や能力について列挙できる。 ・学習者がこれからの社会に生きるために必要な資質や能力を育成できるように、既存の文化や学問・科学を再構成できる。 ・学習指導要領の総則における教育課程編成の一般方針や内容等の取扱いに関する共通の事項、授業時数等の取扱い、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項などについて説明できる。 	<p>教職科目関係で人間形成をいうと、個人内では自己変革や多面的な判断、他者との関わりでは他者の存在を認め、そこからの学びになる。教科内容を構成するという、B2では、教科の親学問の学問的価値を、能力など豊かに生きるための資質や能力的な価値に変換することが人間形成の側面から教材価値を見直すことと考える。そこで、①親学問に関する本質的な理解②学習者が既存する知識や能力などの理解③生きていくために必要な能力の理解④①②③の理解に基づき教材の構成（教科内容構成）能力⑤各学校の教育課程を編成する場合に必要な学習指導要領総則に関する理解、で構成される。</p>

初等 B2	B2-2 各教科等の指導内容に関する体系的な知識、技能を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の各教科等における目標とそれに基づく指導内容について説明できる。 ・学習指導要領の各教科等における指導内容について、小、中学校を一貫した視点から学年内や学年間のつながりを説明できる。 など 	学習内容は学習者の立場から、指導内容を教師の立場からの表現
	B2-3 各教科等の目標、教材、指導方法、学習評価についての知識を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の各教科等における目標の意味や意義について説明できる。 ・学習指導要領の各教科等における指導内容の意味や意義について説明でき、それを教材に具現化できる。 ・学習指導要領の各教科等における指導方法の意味や意義について説明でき、それを具体的な学習指導過程に構想し展開できる。 ・学習指導要領の各教科等における観点別評価の意味や意義について説明でき、それを学習指導過程で具現化できる。 など 	「知識を持っている」ということは、狭義の意味ではなく、実践上で具体的に展開できるようにするため、広義の意味として知識を捉える。B2-1は教科構成論の視点で、B2-3は、学習指導要領の視点での理解を記述。また、評価に関する目的や目標、方法、手法などの学習評価はB1で述べ、B2-3では、学習指導要領を基底とする観点別評価を述べる。
	大項目	小項目	解説
初等 C	C-1 教職への使命感と教育的愛情を持って目的や状況に応じた適切な言動を取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における学校や教育を取り巻く状況に関する理解に基づき、教職への使命感及び教育的愛情を持って教育活動に携わることができる。 ・教師に求められている服務等を遵守することができる。 など 	教育は社会的制度であり、そこに関わる者は学校、教育、及び教師に対する社会的要請・社会的責任を理解した上で教育活動に携わることが求められている。そのため、1) 教職への意識、2) 服務に関すること、という視点から下位項目を構成した。
	C-2 特別な支援を必要とする児童を含め、児童一人一人を理解し指導することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な個々の児童の発達と学習の状況及びニーズを理解し、それらに応じた指導をすることができる。 ・特別に支援を必要としている児童の特徴に応じた効果的な方法を用いて指導することができる。 など 	共生社会の形成に向けた視点を持って、教育の実際に携わっていく必要があるという観点から、小項目を構成した。
	C-3 学級の状況を把握して学級経営の指導計画を立案し、信頼的な関係を築いて指導することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営・生徒指導の意義や視点に立って、学級や児童の状態に応じた指導計画を立案、実施することができる。 ・教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深めることができる。 ・行動管理をすることができる。 ・教室環境、学習環境づくりをすることができる。 など 	学校における学びの基盤としての学級経営・生徒指導の意義を理解した上で教育活動を計画、実施し、児童の成長を保障することが教師に求められている。そこで、1) 実情に応じた計画性、2) 実践的力量（関係性の構築、安全、環境）、の観点から小項目を構成した。

初 等 C	<p>C-4 児童一人一人の到達状況や発達段階を考慮して、場面や状況などに応じた各教科等の指導計画を立案し授業実践をすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や指導法に関する知識を用いて、目的に即した適切な教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・児童の発達段階や一人一人の学習状況、能力に応じた教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・児童の既習知識と関連付けて新しい知識・理解・概念、プロセスを獲得させる教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・児童が学習内容を確実に身に付けることができるように、学習形態を適切に使い分けるとともに、補充的な学習や発展的な学習などを適切に位置付けた教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・必要に応じて適切にICTを活用することができる。 など 	<p>児童一人一人の状況を把握し、それに応じた適切な教育活動を各教科等において計画、実施することにより、児童が持っている諸能力を高めることが教師に求められている。そこで、1) 各教科等の目的に即した教育活動、2) 児童理解に基づいた教育活動、3) 学習過程、4) 学習形態及び補充・発展、5) ICT活用、の観点から下位項目を構成した。ただし、本項目では、初等教育教員養成であることを念頭に置き、各教科等の水準で記述している。</p>
	<p>C-5 児童一人一人の発達や学習を評価することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価計画に基づき、授業実践において児童の学習状況の評価することができる。 ・児童一人一人の学習ニーズを評価することができる。 ・児童一人一人の学習の達成度、進度、課題を把握し、適宜、フィードバックすることができる。 ・児童一人一人が自らの学習を評価し、自らの課題に気付くことができるように支援することができる。 など 	<p>学習をより充実させる上で、教育計画に即して教師が児童の学習の様子を的確に把握し、その結果を児童にフィードバックすることが必要である。そこで、1) 計画性、2) 児童のニーズ、3) フィードバック、4) 児童による自己評価、の観点から構成した。</p>
	<p>C-6 自らの指導を振り返り、指導計画及び教育活動を適宜変更することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自らの教授・学習指導を振り返ることにより、指導計画及び教育活動を適宜変更することができる。 など 	<p>「指導と評価の一体化」の観点から、計画、実施した教育活動を学習者の実情に即して変更、改善することが教師に求められている。本項目はこの観点から構成されている。</p>
	<p>C-7 学校や教室に安全な環境を実現するとともに、それらの維持を点検し評価することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や教室に安全な学習環境を実現し、それらの維持を点検するとともに、必要な改善を行うことができる。 ・校外活動においても、安全な学習環境にあるかどうかを点検・評価し、適切な配慮をすることができる。 ・学校や教室における学習者の行動についての規律、行動規範の枠組みを示し、それに基づいて指導することができる。 ・学習者の行動や規範の管理において、学習者の自主性を尊重することができる。 など 	<p>学校や教室が児童にとって精神的、身体的に安全な場であることが、学習を保障することになる。教師にはこれらの安全を保障する責務があるとともに、児童の自主性を育むという側面も忘れてはならない。そこで、1) 学習環境、2) 校外活動、3) 規範、4) 自主性、という観点から構成した。</p>
	<p>C-8 同僚と協働し、学校の教員として効果的な教育活動の実践及びその改善をすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚と協働し、学校の教員として効果的な教育実践を展開するとともに、より良いものに改善することができる。 ・同僚の教育活動を適切に支援し、学校の教育目標実現に寄与することができる。 など 	<p>学校や教育が置かれている複雑な状況に応じ、より良い教育活動を展開することは教師一人の問題を超えており、同僚との協働性を抜きには考えられない現状である。この観点から、本項目を構成した。</p>

	大項目	小項目	解説
初等 D	D-1 課題探求の基本的な過程（課題の認識, 必要な調査・分析, 解決策の立案, 解決策の実施, 結果の評価・改善という一連の過程）を知っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の諸現象に関する理解を深めるとともに、課題を発見し、必要な調査・分析の計画を立て、解決に向けて創造的に考えることができる。 ・課題の探求のために多様な知識や情報を適切に活用するとともに、複眼的、論理的に分析し表現することができる。 ・課題の解決に向けて自律的に行動するとともに、コミュニケーションを大切にして他者と協動的に取り組むことができる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>「学びの姿勢や問題解決能力」（領域 A 参照）を持っていることは、教員としてのみならず社会人として重要である。このような姿勢や能力の伸長には、自ら課題を見いだしそれを探求する活動を行うことによって、自らの体験・経験の結果として、課題の認識とその追求、改善という「課題探求の過程」を知ることができる。</p>
	D-2 児童、学級、学校において教育課題を自ら見いだし、その教育課題に関する探求を行い、探求成果を報告としてまとめるとともに、活用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習などの体験を通して、児童の発達、学習指導、学級経営など教育活動に関する課題について自ら見いだすことができる。 ・教育の諸課題に対して親学問を参照したり、先行実践を調査したりするなど、適切にアプローチし探求することができる。 ・探求した成果を論文としてまとめたり、プレゼンテーションを作成して共有したりするなど、説明や報告をすることができる。 ・諸課題に関する探求の成果を、実際の教育実践に活用し、その効果を省察することができる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>教師には、常に児童及び授業についての理解を深め、その指導に関わる力量の向上を心掛けることが求められる。そのために、まず、自らの教育活動について課題を見いだすとともに、その課題の解決に向けてどのようなアプローチが可能であるのか、複数の選択肢を持つことが必要である。さらに、その課題解決の成果やアプローチの手法などを教師同士で共有し、再び、自身の実践の省察を通して次なる課題を見いだしていく。こうした「教育実践に関わる課題探求」を日常的に行うことができるよう、小項目を構成した。</p>

(資料2) 中等教育・数学の教員養成の資質・能力一覧

	大項目	小項目	解説
数学 A	A-1 教育者に求められる資質や能力(使命感, 教育的愛情, 対人関係能力)を備えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育者としての使命感や責任感を持っている。 ・教育という職業に対する誇りを持っている。 ・生徒に対する教育的愛情を持っている。 ・人間の成長・発達についての深い理解を持っている。 ・学校組織の一員として活動するための社会性, 同僚と協力して教育を展開する協働性を身に付けている。 ・他者と円滑に意思疎通するためのコミュニケーション能力を身に付けている。 ・生徒からも学び, 共に成長しようとする姿勢を身に付けている。 ・教育の専門家とは何かを知り, それへ向かって努力する姿勢がある。 ・教師になるための課題, また現代の教育の課題を自覚し, それらを解決しようとする姿勢を身に付けている。 ・ICTに関する基礎的知識や技能を持っている。 ・情報社会において必要とされる倫理や規範について理解している。 	<p>教育は人なりというように, 教師には教育者であることが求められている。このことは, その人自身における教育的人間としての資質や能力とともに, 現代の国際化, グローバル化, 情報化社会では, 地球的な視野での行動や態度, 情報関係処理能力やICTなどの技術や技能をも必要としている。</p> <p>このような資質や能力, 技術や技能をまとめると, ①使命感や責任感, ②教育的愛情や誇り, ③人間性や社会性, ④対人関係能力, ④学びの姿勢, ⑤問題解決能力, ⑥地球的視野やその行動, ⑦ICTやその倫理, ⑧専門的知識, ⑨一般的な教養であろう。⑧専門的知識や⑨一般的な教養はほかの項目で, 取り扱われるので, Aとしては, ①-⑦であろう。</p>
	A-2 教育の実際が同僚, 保護者, 地域の人々との連携により展開されていることを理解し, 同僚と互いに高め合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は学校の一員であるとともに, 地域社会の一員でもあることや, 生徒が各家庭において育っていることを理解している。 ・学校は, 教師が協働して取り組む社会的な集合体であり, 各家庭や地域社会と連携し, 展開されていることを理解している。 ・教師は, 教育者として, 地域社会や学校組織の一員として自覚し, 地域の人々や同僚と連携・協力することが必要であることを理解している。 ・学校は, 現代社会が求める教育課題に取組, 一人一人の生徒を成長・発展させ, より高い教育を実現しようとしていることを理解している。 	<p>教師は学校の一員であるとともに, 地域社会の一員でもある。また生徒は, 各家庭において育っている。学校は, 家庭や地域社会と連携するとともに, 教師が協働して取り組む社会的な組織体である。各教師は, 教育者としての使命とともに, 地域社会, 学校組織の一員としても自覚し, 地域社会や組織を地域の人々, 同僚と連携・協力しながら, 発展させることが必要である。これらを整理すると, ①学校の社会的関係, ②同僚, 保護者, 地域社会の人々との連携, ③同僚との協調性・協力, ④教育を高める姿勢, であろう。</p>
	大項目	小項目	解説
数学 B1	B1-1 社会の形成において学校や教育が果たしてきた機能や現代社会における学校や教育の役割を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の形成において果たしてきた学校の機能について知っている。 ・現代社会における学校や教育を取り巻く状況に関して理解している。 ・現代社会において教師として何が求められているかを理解している。 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>
	B1-2 中等教育の意義と役割について知っている。中・高等学校教育の特質について知っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育の意義と役割を知っている。 ・中・高等学校の組織と経営, 行事等について知っている。 ・教育基本法, 学校教育法, 学習指導要領等と関連付けて, 中・高等学校の各教科や特別活動等が人間形成において果たしている役割について知っている。 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>

数 学 B1	<p>B1-3 学校や教育を取り巻く基礎的な知識を持ち、関連する法令の内容と関連付けて教師に求められていることについて理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を取り巻く地域社会の要請や生徒の実態を把握し、同僚と協力する必要性について理解している。 ・教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法等に基づき、教師に求められている服務や研修等について知っている。 など 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>
	<p>B1-4 中・高等学校の教育課程に関する知識を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の成長と発達に必要な文化を組織した全体的な計画としての教育課程に関する知識を持っている。 ・計画を実践するとともに、その実践の成果に基づいて評価し改善する過程としての教育課程に関する知識を持っている。 ・中・高等学校の教育課程としての中・高等学校学習指導要領に関する知識を持っている。 など 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>
	<p>B1-5 生徒指導や学級経営の意義や視点などに関する知識を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営・生徒指導の意義や視点などに関する知識を持っている。 ・行動管理の方法に関する知識を持っている。 ・教室環境、学習環境づくりに必要な知識を持っている。 など 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>
	<p>B1-6 発達や学習に関する知識を持っている。また、特別に支援を必要とする生徒の特徴、必要な対応方法について理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達と学習に関する知識を持っている。 ・教授及び学習指導に関する知識を持っている。 ・特別に支援を必要とする生徒の特徴を理解しているとともに、多様な個々の生徒のニーズに対して効果的に対応する方法を理解している。 など 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>
	<p>B1-7 生徒の発達や学習を評価することの目的、方法、意義について知識を持っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の目的と意義について知識を持っている。 ・評価に用いる様々な方法を知り、その方法の利点や弱点を知っている。 ・目標に準拠した評価を実施する上で必要な事項について知っている。 など 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>
	<p>B1-8 ICTに関する基礎的な知識や技能を持ち、情報化社会において必要とされる情報倫理について理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに関する知識を持ち必要なスキルを理解している。 ・情報化社会において必要とされる規範について理解している。 など 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>

	大項目	小項目	解説
数学 B2	B2-1 目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「陶冶」的目的, 実用的目的, 文化的目的といった視座から, 教育における数学の役割や意義を認識し, 時代や社会に見合った数学教育の在り方を探究することができる。 ・学習指導要領を下に, 歴史的変遷や算数科との関連も踏まえながら, 数学科の目標を具体的に理解している。 など 	<p>数学科をはじめとする各教科等は, 人間形成の一翼を担っている。このような認識の下, 数学科の目的や目標を理解することが数学科教師には求められる。こうした視座から, 数学科の到達目標として, 「目的・目標」の項目を設けた。</p> <p>具体的な到達目標としては, 次の二つが重要であると考ええる。第一は, 人間形成に果たす「数学」の役割や意義を認識し, そうした認識に基づいて, 数学教育の在り方を探求できることである。第二は, 第一を踏まえながら, 学習指導要領に沿って, 数学科の目標を具体的に理解することである。</p>
	B2-2 数学の内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の内容に関する基礎知識を持つとともに, 数学を生み出したり使ったりする方法を理解している。 ・学習指導要領を下に, 数学科の内容とその系統を理解している。 など 	<p>数学科の授業を構成し実践するに当たっては, 数学に関する基礎的な専門性は不可欠である。こうした視座から, 数学科の到達目標として, 「数学の内容と方法」の項目を設けた。</p> <p>具体的な到達目標としては, 次の二つが重要であると考ええる。第一は, 教材の背景となる数学に関する基礎知識を持つとともに, 数学を創造したり活用したりするときの方法を理解することである。第二は, 学習指導要領に沿って, 各学年や各科目で指導する内容とその系統を理解することである。</p>
	B2-3 生徒の数学学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階を踏まえながら, 数学学習における生徒の理解過程や思考の特徴を理解している。 ・生徒一人一人の学習状況や能力の違いなど, 数学科における個に応じた指導の必要性や意義を理解している。 など 	<p>数学科の授業を構成し実践するに当たっては, 生徒理解が求められる。こうした視座から, 数学科の到達目標として「生徒の数学学習」の項目を設けた。</p> <p>具体的な到達目標として, 次の二つが重要であると考ええる。第一は, 生徒の発達段階や理解過程, 思考の特徴を理解することである。第二は, 「個に応じた指導」の必要性や意義を理解することである。</p>

数学 B2	B2-4 授業構成, 指導技術	<ul style="list-style-type: none"> ・数学科の授業を構成するために必要となる教材研究を行うことができる。 ・問題解決的な学習や探究的な学習, 数学的活動に基づく学習など, 数学科における基本的な授業方法を理解している。 ・教材研究を踏まえながら, 数学科の学習指導案を作成することができる。 ・生徒への課題提示や指示の仕方, 発問や板書の仕方, 教具やICTの活用など, 数学科の授業における基本的な指導技術を習得している。 など 	<p>数学科の授業を構成し実践するに当たっては, 授業構成や指導技術に関する専門性も求められる。また, 両者に関する専門性は相互に関係している。こうした視座から, 数学科の到達目標として, 「授業構成, 指導技術」の項目を設けた。</p> <p>具体的な到達目標として, 次の四つが重要であると考え。第一は, 教材研究を行うことができることである。第二は, 基本的な授業方法を理解することである。第三は, 学習指導案を作成することができることである。第四は, 基本的な指導技術を習得することである。</p>
	B2-5 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・数学科における観点別学習状況評価の意味や意義を理解している。 ・数学科の授業において, 生徒一人一人の学習の達成度や進捗, 課題を把握するための評価方法を理解している。 ・指導と評価の一体化という視座から, 生徒一人一人の学習の達成度や進捗, 課題に関する評価結果をフィードバックしたり, 指導の改善に生かしたりすることの意義を理解している。 など 	<p>数学科の授業では, 「指導と評価の一体化」という視座から, 生徒の達成度を的確に評価し, その結果を指導の改善に生かすことが求められる。こうした視座から, 数学科の到達目標として, 「評価」の項目を設けた。</p> <p>具体的な到達目標として, 次の三つが重要であると考え。第一は, 数学科における観点別学習状況評価を理解することである。第二は, 評価方法を理解することである。第三は, 評価結果を指導の改善に生かすことの意義や重要性を理解することである。</p>
	大項目	小項目	解説
数学 C	C-1 教職への使命感と教育的愛情を持って目的や状況に応じた適切な言動を取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における学校や教育を取り巻く状況に関する理解に基づき, 教職への使命感及び教育的愛情を持って教育活動に携わることができる。 ・教師に求められている服務等を遵守することができる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。
	C-2 特別な支援を必要とする生徒を含め, 生徒一人一人を理解し指導することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な個々の生徒の発達と学習の状況及びニーズを理解し, それらに応じた指導をすることができる。 ・特別に支援を必要としている生徒の特徴に応じた効果的な方法を用いて指導することができる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。
	C-3 学級の状況を把握して学級経営の指導計画を立案し, 信頼的な関係を築いて指導することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営・生徒指導の意義や視点に立って, 学級や生徒の状態に応じた指導計画を立案, 実施することができる。 ・教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深めることができる。 ・行動管理をすることができる。 ・教室環境, 学習環境づくりをすることができる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。

<p>数 学 C</p>	<p>C-4 生徒一人一人の到達状況や発達段階を考慮して、場面や状況などに応じた数学科の指導計画を立案し授業実践をすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学科の目的・目標、数学の内容と方法を踏まえながら、教材、指導法に関する知識を用いて、問題解決的な学習や探究的な学習、数学的活動などに基づく適切な教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・生徒の発達段階及び数学学習における生徒の理解過程や思考の特徴を踏まえながら、一人一人の学習状況、能力に応じた教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・生徒の既習知識と関連付けて新しい知識・理解・概念、プロセスを獲得させる教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・生徒が学習内容を確実に身に付けることができるように、学習形態を適切に使い分けるとともに、補充的な学習や発展的な学習などを適切に位置付けた教育活動、授業を計画し実践することができる。 ・生徒への課題提示や指示の仕方、発問や板書の仕方、教具やICTの活用などの基本的な指導技術を基盤としながら、授業を適切に計画し実践することができる。 など 	<p>数学科の授業の実践力では、生徒の到達状況や発達段階を考慮しながら、数学科の目的・目標、内容と方法を踏まえた指導計画の立案と授業の実践が求められるため、この項目を設けた。具体的な到達目標では、①数学科の目的・目標、内容と方法、授業構成の在り方を踏まえた授業の計画と実践、②生徒の数学学習の特徴を踏まえた授業の計画と実践。③生徒の既習知識との関連付けの重視、④学習内容を確実に身に付けるための授業の計画と実践、⑤指導技術に関する専門性を用いての授業の計画と実践が重要である。</p>
	<p>C-5 生徒一人一人の数学の学習状況を評価することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学科における観点別学習状況評価などに基づく評価計画にしたがって、授業実践において生徒の学習状況を評価することができる。 ・生徒一人一人の学習ニーズを評価することができる。 ・生徒一人一人の学習の達成度、進度、課題を把握し、適宜、フィードバックすることができる。 ・生徒一人一人が自らの学習を評価し、自らの課題に気付くことができるように支援することができる。 など 	<p>数学科の授業の実践力においては、生徒の数学の学習状況を評価し、適切にフィードバックをすることが求められるため、この項目を設けた。具体的な到達目標では、①観点別学習状況評価などに基づく評価計画に従った学習状況の評価、②生徒一人一人の学習ニーズの評価、③生徒の課題の把握とフィードバック、④生徒が自らの学習を評価するための支援が重要である。</p>
	<p>C-6 数学科における自らの指導を振り返り、指導計画及び教育活動を適宜変更することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学科における授業研究などの視座から、教師自らの教授・学習指導を振り返ることにより、指導計画及び教育活動を適宜変更することができる。 など 	<p>数学科の授業の実践力においては、「指導と評価の一体化」という視座から、生徒の達成度の評価結果を指導の改善に生かすことが求められるため、この項目を設けた。その際、数学科における授業研究などから得られる示唆（授業観察の視点や教材研究の方法）を用いることが重要である。なお、この項目は、研究力D-2につながるものである。</p>
	<p>C-7 学校や教室に安全な環境を実現するとともに、それらの維持を点検し評価することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や教室に安全な学習環境を実現し、それらの維持を点検するとともに、必要な改善を行うことができる。 ・校外活動においても、安全な学習環境にあるかどうかを点検・評価し、適切な配慮をすることができる。 ・学校や教室における学習者の行動についての規律、行動規範の枠組みを示し、それに基づいて指導することができる。 ・学習者の行動や規範の管理において、学習者の自主性を尊重することができる。 など 	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>

<p>数学 C</p>	<p>C-8 同僚と協働し、学校の教員として効果的な教育活動の実践及びその改善をすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚と協働し、学校の教員として効果的な教育実践を展開するとともに、より良いものに改善することができる。 ・同僚の教育活動を適切に支援し、学校の教育目標実現に寄与することができる。 <p>など</p>	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>
<p>大項目</p>		<p>小項目</p>	<p>解説</p>
<p>数学 D</p>	<p>D-1 課題探求の基本的な過程（課題の認識、必要な調査・分析、解決策の立案、解決策の実施、結果の評価・改善という一連の過程）を知っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や自然の諸現象に関する理解を深めるとともに、課題を発見し、必要な調査・分析の計画を立て、解決に向けて創造的に考えることができる。 ・課題の探求のために多様な知識や情報を適切に活用するとともに、複眼的、論理的に分析し表現することができる。 ・課題の解決に向けて自律的に行動するとともに、コミュニケーションを大切に他者と協働的に取り組むことができる。 <p>など</p>	<p>「学びの姿勢や問題解決能力」（領域 A 参照）を持っていることは、教員としてのみならず社会人として重要である。このような姿勢や能力の伸長には、自ら課題を見いだしそれを探求する活動を行うことによって、自らの体験・経験の結果として、課題の認識とその追求、改善という「課題探求の過程」を知ることができる。</p>
	<p>D-2 生徒、学級、学校において教育課題を自ら見だし、その教育課題に関する探求を行い、探求成果を報告としてまとめるとともに、活用することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習などの体験を通して、生徒の発達、教材、学習指導、学級経営などの教育活動に関する課題を自ら見いだすことができる。 ・教育の諸課題に対して親学問を参照したり、先行研究や実践を調査したりするなど、適切にアプローチし探求することができる。 ・教育実践を具体的な事実として捉え、それを研究対象とすることができる。 ・諸課題に関する探求の成果を、教育実践に活用し、その効果を省察することができる。 ・探求した成果を論文としてまとめたり、プレゼンテーションを行い共有したりするなど、説明や報告をすることができる。 <p>など</p>	<p>教育に関する課題を自ら見だし、それを調査研究や授業研究、文献研究などによって探求しその成果報告を行うという、一連の活動を通して、教員として研究し続ける能力の伸長や意欲の喚起は重要である。このような一連の活動によって、教育実践を研究対象として実践・研究を継続的に推進するという態度の形成を目指す。</p>

(資料3) 中等教育・保健体育の教員養成の資質・能力一覧

	大項目	小項目	解説
保健体育 A	A-1 教育者に求められる資質や能力(使命感や責任感, 教育的愛情や誇り, 人間性や社会性, 文化・学問・社会への関心と学びの姿勢, 生命尊重・健康管理・安全の意識, 対人関係能力, 問題解決能力, 地球的な視野やその行動, ICT やその倫理)を備えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育者としての使命感や責任感を持っている。 ・教育という職業に対する誇りを持っている。 ・生徒に対する教育的愛情を持っている。 ・人間の成長・発達についての深い理解を持っている。 ・学校組織の一員として活動するための社会性, 同僚と協力して教育を展開する協働性を身に付けている。 ・文化や学問・科学技術, 社会の動向について関心を持ち, 生徒からも学び, 共に成長しようとする姿勢を身に付けている。 ・教育活動のあらゆる場面において, 生徒のいのちとからだ・健康を守るという意識を持っている。 ・他者と円滑に意思疎通するためのコミュニケーション能力を身に付けている。 ・現代の教育の課題を自覚し, それらを解決しようとする姿勢を身に付けている。 ・国際化, グローバル化に対応し, 地球的な視野で物事を捉え行動できる能力を身に付けている。 ・ICTに関する基礎的知識や技能を持っている。 ・情報化社会において必要とされる倫理や規範について理解している。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>基本的には, 初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし, 中等段階の特化した項目として, 「④文化・学問・社会への関心と学びの姿勢」を, さらには, 保健体育科に特化した項目として, 「⑤生命尊重・健康管理・安全の意識」の項目を付け加えて, 以下の小項目を設定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 使命感や責任感 ② 教育的愛情や誇り ③ 人間性や社会性学びの姿勢 ④ 文化・学問・社会への関心と学びの姿勢 ⑤ 生命尊重・健康管理・安全の意識 ⑥ 対人関係能力 ⑦ 問題解決能力 ⑧ 地球的な視野やその行動 ⑨ ICT やその倫理
	A-2 教育の実践が同僚, 保護者, 地域の人々との連携により展開されていることを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は学校の一員であるとともに, 地域社会の一員であることを理解している。 ・生徒が各家庭において育っていることを理解している。 ・学校は, 教師が協働して取り組む社会的な集合体であり, 各家庭や地域社会と連携し, 展開されていることを理解している。 ・教師は, 教育者として, 地域社会や学校組織の一員として自覚し, 地域の人々や同僚と連携・協力することが必要であることを理解している。 ・学校は, 現代社会が求める教育課題に取組, 一人一人の生徒を成長・発展させ, より高い教育を実現しようとしていることを理解している。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>基本的には, 初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし, 若干の項目の整理を行い, 以下の観点から小項目を設定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校の社会的関係 ② 同僚, 保護者, 地域社会の人々との連携・協力 ③ 教育を高める姿勢
	大項目	小項目	解説
保健体育 B1	B1-1 社会の形成において学校や教育が果たしてきた機能や現代社会における学校や教育の役割を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の形成において果たしてきた学校の機能について知っている。 ・現代社会における学校や教育を取り巻く状況に関して理解している。 ・現代社会において教師として何が求められているか理解している。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>初等の大項目・小項目と同様。</p>

保健 体育 B1	B1-2 中等教育の意義と役割について知っている。中等教育の特質について知っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育の意義と役割を知っている。 ・中・高等学校の組織と経営・行事等について知っている。 ・教育基本法，学校教育法，学習指導要領等と関連付けて，中・高等学校の各教科や特別活動等が人間形成において果たしている役割について知っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	初等の大項目・小項目と同様。
	B1-3 学校や教育を取り巻く基礎的な知識を持ち，関連する法令の内容と関連付けて教師に求められていることについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を取り巻く地域社会の要請や青少年の実態を把握し，同僚と協力する必要性について理解している。 ・教育基本法，学校教育法，教育公務員特例法等に基づき，教師に求められている服務や研修等について知っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	初等の大項目・小項目と同様。
	B1-4 中・高等学校の教育課程に関する知識を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の成長と発達に必要な文化を組織した全体的な計画としての教育課程に関する知識を持っている。 ・計画を実践するとともに，その実践の成果に基づいて評価し改善する過程としての教育課程に関する知識を持っている。 ・中・高等学校の教育課程としての中・高等学校学習指導要領に関する知識を持っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	初等の大項目・小項目と同様。
	B1-5 生徒指導や学級経営の意義や視点などに関する知識を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営・生徒指導の意義や視点などに関する知識を持っている。 ・行動管理の方法に関する知識を持っている。 ・教室環境，学習環境づくりに必要な知識を持っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	初等の大項目・小項目と同様。
	B1-6 発達や学習に関する知識を持っている。また，特別に支援を必要とする生徒の特徴，必要な対応方法について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達と学習に関する知識を持っている。 ・教授及び学習指導に関する知識を持っている。 ・特別に支援を必要とする青少年の特徴を理解しているとともに，多様な個々の青少年のニーズに対して効果的に対応する方法を理解している。 <p style="text-align: right;">など</p>	初等の大項目・小項目と同様。
	B1-7 生徒の発達や学習を評価することの目的，方法，意義について知識を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の目的と意義について知識を持っている。 ・評価に用いる様々な方法を知り，その方法の利点や弱点を知っている。 ・目標に準拠した評価を実施する上で必要な事項について知っている。 <p style="text-align: right;">など</p>	初等の大項目・小項目と同様。

保健体育 B1	B1-8 学校教育において求められる ICT に関する基礎的な知識や技能を持ち、情報化社会において必要とされる情報倫理について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT に関する知識を持ち必要なスキルを理解している。 ・ 学校教育において必要とされる ICT に関する規範について理解している。 など 	基本的には、初等の大項目・小項目と同様。ただし、「②学校教育において必要とされる ICT に関する規範について理解している。」は文言を変更し、小項目とした。
	大項目	小項目	解説
保健体育 B2	B2-1 保健体育科の指導内容の教育的価値について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育・スポーツ・保健に関わる専門科学の基本的な知識と方法を理解し、説明できる。 ・ 体育・スポーツ・保健に関わる専門科学に関して、生徒が持つ知識・技能、見方・考え方について説明できる。 ・ 生徒が、生涯を通じて健康で豊かに生きるために必要な、体育・スポーツ・保健に関わる専門科学を学ぶことによって得られる、資質や能力について列挙できる。 ・ 生徒が生涯を通じて運動に親しみ健康で豊かに生きるために必要な体育・スポーツ・保健に関わる資質や能力を育成できるように、関連する専門科学の内容を、学習指導要領に基づきながら、保健体育科の指導内容に組み立てることができる。 など 	基本的には、初等の大項目・小項目と同様。ただし、初等 B2-1 の「④教材の構成(教科内容構成)能力」については、教員養成段階にふさわしいレベルに文言を変更し、「⑤各学校の教育課程を編成する場合に必要となる学習指導要領総則に関する理解」と一体とした小項目とした。
	B2-2 保健体育科の指導内容に関する系統的な知識・技能を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に定められている保健体育科における指導内容について基本的な知識・技能を身に付けている。 ・ 他校種の学習指導要領に定められている体育科・保健体育科の指導内容についても知識・技能を持っており、他校種間の繋がりを説明できる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。
	B2-3 保健体育科の目標、内容、指導方法、評価についての知識・技能を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領の保健体育科の目標について説明できる。 ・ 学習指導要領の保健体育科の内容とその系統性について説明できる。 ・ 学習指導要領の保健体育科の目標や内容、生徒の実態を基に、学習指導案を作成することができる。特に単元計画の意味を理解し、適切な単元計画を作成することや、本時案を作成することができる。 ・ 指導内容や生徒の実態に対応した教材や教具を工夫したり、作ったりすることの必要性を理解し、適切な教材や教具を工夫したり、作ったりすることができる。 ・ 指導に当たっては多様な学習形態があることを理解し、適切な指導方法を選ぶことができる。 ・ 保健体育科の観点別評価の意味について理解している。また、教科の目標や内容に即して、適切な方法を用いて学習者の評価をする、という点を理解している。 ・ 上記の視点を理解し、大学での模擬授業において総合的に実践することができる。 など 	基本的には、初等の大項目・小項目と同様。ただし、項目は、保健体育科教育に即した適切な小項目を設定した。また、保健体育科教育に特化した項目として、「⑦上記の視点を理解し、大学での模擬授業において総合的に実践することができる。」を設定した。実技を含む教科としては、「保健体育科の目標、内容、指導方法、評価についての知識・技能」として、「⑦上記の視点を理解し、大学での模擬授業において総合的に実践することができる。」ことが求められる。

	大項目	小項目	解説
保健体育C	C-1 教職への使命感と教育的愛情を持って目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における学校や教育を取り巻く状況に関する理解に基づき、教職への使命感及び教育的愛情を持って教育活動に携わることができる。 ・保健体育科の教師に求められている服務等を遵守することができる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。
	C-2 多様な支援を必要とする生徒を含め、生徒一人一人を理解し指導することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の発達と学習の状況及びニーズを理解し、それらに応じた指導をすることができる。 ・多様な支援を必要としている生徒の特徴に応じて、適切な方法を用いて指導をすることができる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。
	C-3 学級の状況を把握して学級経営の指導計画を立案し、信頼関係を築いて指導することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営・生徒指導の意義や視点に立って、学級や生徒の状況に応じた指導計画を立案、実施することができる。 ・教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を、適切な方法を用いて育てるとともに生徒理解を深めることができる。 ・学校や教室における学習者の行動についての規律、行動規範の枠組みを示し、それに基づいて指導することができる。 ・学習者の自主性を尊重しながら、生徒の行動管理をすることができる。 など 	<p>基本的には、初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし、以下の変更を行った。第1に、「行動管理」以外に「行動規律」の指導を具体化するために、「③学校や教室における学習者の行動についての規律、行動規範の枠組みを示し、それに基づいて指導することができる。」の項目を付け加えた。第2に、「⑤教育活動にふさわしい適切な学習環境づくりができる。」を本欄ではなく、C-4 として構成した。</p>
	C-4 生徒一人一人の到達状況や発達段階を考慮して、場面や状況などに応じた保健体育科の指導計画を立案し授業実践をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や指導法に関する知識（教科内容知識、体育・スポーツ・保健に関する科学的知識、教授学的知識）を用いて、目的に即した適切な教育活動、授業等を計画し実践することができる。 ・生徒の発達段階や一人一人の学習状況、能力に応じた教育活動、授業等を計画し実践することができる。 ・生徒の既習知識と関連付けて新しい知識・理解・概念、プロセスを獲得させる教育活動、授業等を計画し実践することができる。 ・生徒が学習内容を確実に身に付けることができるように、学習形態を適切に使い分けるとともに、補充的な学習や発展的な学習などを適切に位置付けた教育活動、授業等を計画し実践することができる。 ・教育活動にふさわしい適切な学習環境づくりができる。 ・学校教育において必要とされる倫理や規範に則り、適切にICTを活用することができる。 など 	<p>基本的には、初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし、「⑤教育活動にふさわしい適切な学習環境づくりができる。」項目をC-3から移動し、本項目に構成した。</p>

保健 体育 C	C-5 生徒一人一人の発達や学習を評価することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価計画に基づき、授業実践において生徒の学習状況を評価することができる。 ・生徒一人一人の学習ニーズを評価することができる。 ・生徒一人一人の学習の到達度、進度、課題を把握し、適宜、フィードバックすることができる。 ・生徒一人一人が自らの学習を評価し、自らの課題に気付くことができるように指導・支援することができる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。
	C-6 自らの指導を振り返り、指導計画及び教育活動を、適宜、修正することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自らの学習指導を振り返ることにより、当初、設定した指導の見通し（ゴールイメージ）に照らして、適宜、指導計画及び教育活動を修正することができる。 など 	初等の大項目・小項目と同様。
	C-7 生徒一人一人の健康や発達の状況に配慮し、学校や教室に安全な環境を実現することともに、それらの維持を点検し評価することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の健康や発達の状況に関心を払い、適切な配慮をすることができる。 ・学校や教室に安全な教室空間・学習環境を実現し、それらの維持を点検するとともに、必要な改善を行うことができる。 など 	<p>基本的には、初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし、以下の変更を行った。第1に、本欄の大項目の内容を明確に示すために冒頭に「生徒一人一人の健康や発達の状況に配慮し、」を付け加えた。第2に、保健体育科は基本的に校内での活動を意図しているため、「校外活動」に関する項目は削除した。第3に、「自主性」の項目は、【3 学級の状況を把握して学級経営の指導計画を立案し、信頼関係を築いて指導することができる】欄の「③学校や教室における学習者の行動についての規律、行動規範の枠組みを示し、それに基づいて指導することができる。」という項目として設定し、本欄では削除した。</p>
	C-8 同僚と協働し、学校の教員として効果的な教育活動の実践及びその改善をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚と協働し効果的な教育実践を展開するとともに、課題を踏まえて適切に改善することについて理解している。 ・同僚の教育活動を適切に支援し、学校の教育目標実現に寄与することについて理解している。 ・保護者や地域住民と信頼関係の構築と適切な対応について理解している。 など 	<p>基本的には、初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし、学校の教員として効果的な教育活動の実践及びその改善をするためには、保護者や地域住民との信頼関係が不可欠であるので、「③保護者や地域住民と信頼関係の構築と適切な対応について理解している。」を項目に付け加えた。</p>

	大項目	小項目	解説
保健 体育 D	D-1 課題探求の基本的な過程（課題の認識, 必要な調査・分析, 解決策の立案, 解決策の実施, 結果の評価・改善という一連の過程）を知っている。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身体活動や生活・健康実態, 社会の諸現象に関する理解を深めるとともに, 課題を発見し, 必要な調査・分析の計画を立て, 解決に向けて創造的に考えることができる。 課題の探求のために多様な知識や情報を適切に活用するとともに, 複眼的, 論理的に分析し表現することができる。 課題の解決に向けて自律的に行動するとともに, コミュニケーションを大切に他者と協動的に取り組むことができる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>基本的には, 初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし, ① 課題の認識に関わって, 小項目に保健体育科にふさわしく「生徒の身体活動や生活・健康実態」を補足した。</p>
	D-2 生徒, 学級, 学校において教育課題を自ら見だし, その教育課題に関する探求を行い, 探求成果を報告としてまとめるとともに, 活用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習などの体験を通して, 生徒の発達, 学習指導, 学級経営, 部活動など, 教育活動に関する課題について自ら見出すことができる。 教育の諸課題に対して親学問を参照したり, 先行実践を調査したりするなど, 適切にアプローチし探求することができる。 探求した成果を論文としてまとめたり, プレゼンテーションのための資料作成や説明や報告をし, 同僚と課題を共有できる。 諸課題に関する探求の成果を実際の教育実践に活用し, その効果を省察することができる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>基本的には, 初等の大項目・小項目と同様。</p> <p>ただし, 「① 教育課題の発見」の項目に関わって, 保健体育科にふさわしく「部活動」を補足した。</p>

研究体制： 教員養成カリキュラム班 コア・カリキュラム研究チーム

所内委員	所外委員							
	包括検討		初等教育		中等教育・数学		中等教育・保健体育	
銀島文	角屋重樹 *	日本体育大学	池野範男 *	広島大学	中原忠男 *	環太平洋大学	池田延行 *	国士舘大学
今関豊一	池野範男	広島大学	植田敦三	広島大学	植田敦三	広島大学	植田誠治	聖心女子大学
長尾篤志	植田敦三	広島大学	角屋重樹	日本体育大学	太田伸也	東京学芸大学	岡出美則	筑波大学
水谷尚人	木原成一郎	広島大学	木原成一郎	広島大学	国宗進	静岡大学	小澤治夫	東海大学
	猿田祐嗣	國學院大学	中村和弘	東京学芸大学	齊藤規子	昭和女子大学	木原成一郎	広島大学
					清水美憲	筑波大学	近藤真庸	岐阜大学
					中村光一	東京学芸大学	近藤智靖	日本体育大学
					日野圭子	宇都宮大学	高橋和子	横浜国立大学
					山口武志	鹿児島大学	長見真	仙台大学
						細越淳二	国士舘大学	
						渡邊正樹	東京学芸大学	

* 印はグループ主査

報告書は当研究所ホームページに掲載。

『教員養成等の改善に関する調査研究(全体版)報告書』

http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h26/3-1_all.pdf

平成26年度研究成果

http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_digest_h26.html
